

「贈りたい本の市」を実施して

寺田幸子

平成26年度の協力会の活動として、最も記憶に残る活動は「贈りたい本の市」を実施したことではなかったかと思えます。

昨年度末、図書館の方から県教育委員会主催の「やまなし読書活動促進事業」の一環として協力会でも古本市を実施して欲しいとのことでした。大勢の人たちからできるだけたくさんの本を集め、それを安く販売することで多くの人に本を読んでもらおうという試みとのことでした。4月の協力会の総会で実施を決定し、その直後、阿刀田高館長より、この事業について、館長の発案された思いを伺いました。

「自分が読んで感動した本を他の人にも読んで頂くことで、より多くの人に読書の輪を広げていきたい」というものでした。ですから、これは一般的な古本市というのではなく、自分の大切な人に贈りたいと思うような本、是非読んで欲しいと思うような本を提供して頂いて、それを他の人にも手にとって読んで頂こうという企画です。この良い本を人に贈ることが生活の中に根付いていき、延いては書店の活性化、本の文化の継承にもつながるのではないかといったお考えでした。

先ず実行委員会を立ち上げました。協力会の役員の他に自発的に3名が加わってくださいました。最初の実行委員会で先ずこの事業は単なる古本市ではないことを周知するために、趣旨がはっきり分かるようにと、口を突いて出た「贈りたい本の市」いうのを、古本市に代わる呼び方としました。

この「やまなし読書活動促進事業」は県全体に展開する事業ということであり、本を贈ることも広く展開していくことを目指すものですが、初めての試みであり、本の提供依頼、提供された本の回収をどの範囲まで、どのような方法で行うか、実行委員会で話し合いを重ねました。

先ず国中の図書館関係を中心に依頼することとし、依頼文書の作成やチラシの作成等、それぞれが手分けして担当しました。市町村の図書館に伺ってお願いする時には、市町村の図書館長経験の方々が、他の実行委員とともに忙しい中を足を運んでくださいました。

そして、協力員の皆様、図書館の関係者及び利用者の皆様の御協力で、約1,400冊の「贈りたい本」を提供して頂きました。中には、メッセージカードを添えて頂いたものも結構ありました。「贈りたい本」をチェックしながら段ボール箱に入れて準備をする私たちに、提供して下さった方の「贈りたい」思いが温かく伝わってきました。

また「贈りたい本の市」の宣伝については、新聞紙上のみならず、山梨日日新聞社で土曜日に発行の「かわせみ」で取り上げて頂いたことは、「贈りたい本の市」の実施に当たってはもちろんのこと、図書館協力会の日常の活動について大勢の人に知って頂く良い機会になったのではないかと感じております。

11月9日朝、テントを張ってその中に机を運び本を並べて、「贈りたい本の市」は店開きしました。太筆で模造紙に書いた看板が目を引きました。「売り上げは歳末助け合いに」の貼り紙も掲示されました。開店時間前に既に何人も来客が待っていてくださり、予想以上に大勢の方たちが「贈りたい本」を手にして喜んでくださいました。テレビのニュースでも「本を読みたいけれど、高くてなかなか買えないが、こんなに安く良い本が買えて良かった」と話されているのが報道されていました。「贈りたい本の市」が終って、初めて、このイベントの意義を実感しました。売上金も「歳末助け合い」に寄附することもできました。

この「贈りたい本の市」は、たくさんの本を提供して下さった皆様と、協力員の皆様の協力で、無事に、成功裏に終ることができたと思います。初めてのことでしたので、進めていく過程で様々な課題に気づき問題が生じても、すぐに解決することは難しく、課題は残されました。山縣会長さんにはたいへんな御苦勞がありました。皆様のお陰で成し遂げることができたと思います。

「贈りたい本の市」については、反省会において来年度も実施したいという意見がいくつもありました。読書推進という点で意味のあることと思いますので、継続実施する時には、今年の実践、課題を踏まえて、より効率的にできるよう、また県立図書館と市町村の公立図書館との連携の中で図書館活動がより良いものとなるよう、協力員として図書館に協力していくことが必要であると思いました。